



真狩ルート 北海道後志羊蹄山
(1898m)、真狩岳(1892.7m) (ハイ
キング / 積丹・ニセコ・羊蹄山)

by
gekiyabu 

日程 :

2012年06月24日(日帰り)

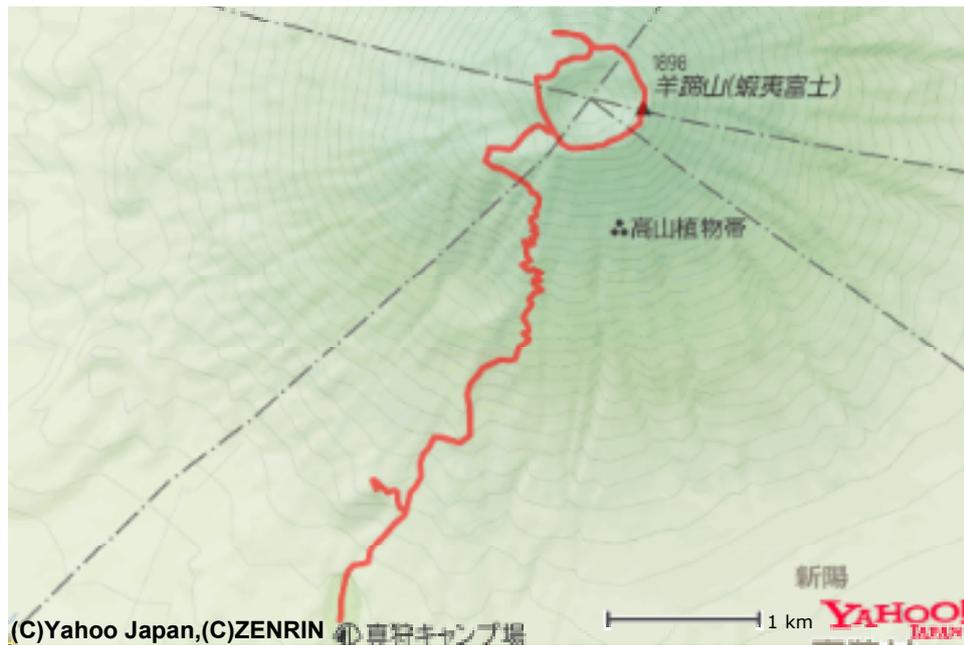
メンバー :

gekiyabu

天候 :

曇り時々晴れ

地図 :



WEB SERVICES BY 

標高グラフ :

コースタイム :

3:59 登山者用駐車場 -- 4:04 真狩登山口 -- 6:51 9合目(避難小屋分岐) -- 7:11 火口壁 -- 7:32 倶知安コース分岐 -- 7:37 北山 -- 7:45 倶知安コース分岐 -- 1893.0m三角点 -- 8:00 羊蹄山 9:00 -- 9:24 真狩コース分岐 -- 9:34 9合目(避難小屋分岐) -- 10:47 南コブ分岐 -- 10:58 南コブ -- 11:07 南コブ分岐 -- 11:19 真狩登山口 -- 11:25 登山者用駐車場

コース状況/その他周辺情報 :

- ・真狩コースを往復。北山と南コブのオプション付き
- ・広い駐車場、登山ポストあり

- ・この時期の北海道は午前4時でも十分に明るい
- ・登山道は良好。残雪は2か所あったがアイゼンは全く不要だった
- ・標高約1600mで森林限界を突破(本州のアルプス級の山より約1000m低い)、大展望が広がる
- ・山頂から真狩コース分岐までの間は溶岩の岩場が続くが特に危険なし

 写真:



キャンプ場手前に登山者用
駐車場がある



駐車場は結構広い



キャンプ場入口。この奥に
登山口あり



真狩ルートの案内図



真狩ルート登山口。登山ポ
ストあり



泥濘があるが道は良好



1~9合目にこのような標識
がある



ガスの隙間から山頂部が見
えた



7合目付近。そろそろ森林
限界



8合目を過ぎると森林限界
を突破



ニセコの山々を見下ろす



9合目の先にある避難小屋



9合目付近から見た刈場山



小さな雪溪を横断。アイゼン不要



シラネアオイが花盛り



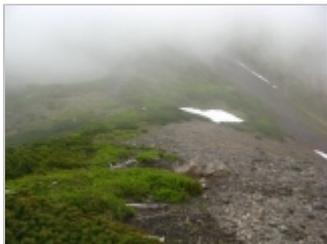
火口壁の一角に出た。風が寒い!



右回りでお鉢めぐり開始



旧小屋跡



鞍部に下る



お鉢北端。比羅夫ルート分岐



北山に向けて出発



北山(1843.7m三角点峰)



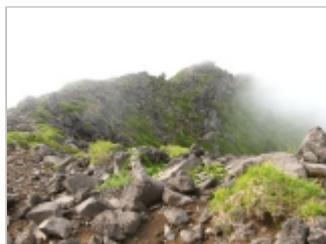
次は山頂目指す



京極ルート分岐



真狩岳(1892.7m1等三角点峰)



山頂に向かう



羊蹄山山頂



山頂から見た大火口



山頂から見た南東側の展望。雲海が多く山々はほとんど見えなかった



喜茂別ルート分岐



山頂より真狩ルート分岐まで溶岩の岩場が続く。ただし危険はない



通過してきた岩場の尾根



真狩ルート分岐へ下る



南コブ山頂



南コブから見た南側の展望

感想／記録 : (by gekiyabu)

言うまでもない百名山。登山ルートはいくつもあるが、今回は雪解けが一番早そうな南斜面の真狩(まっかり)ルートを選択。登山口(駐車場)の標高は約370m、山頂は約1900mなので標高差約1530m。富士山よりもきつい計算で、アルプス級の山で登山口から初日宿泊の山小屋くらいまで歩くのにほぼ等しい。たぶん一般登山者だと日帰りは相当きついはずだ。しかし私の脚力なら日帰りは充分可能な範疇で、予想所要時間は登りで4時間程度、下りは2時間半くらいか。朝4時に出発すればお昼くらいには充分下山可能だと踏んだ。時間に余裕があるので火口壁上の北山(1843.7m三角点峰)と、650.3m三角点峰の南コブにも立ち寄ろう。

真狩市街地のコンビニで食料調達し、羊蹄山自然公園で車中泊。オートキャンプ場手前に登山者用駐車場がある。たぶん50台は駐車可能くらい広い。オートキャンプ場の車道に登るとキャンプ場終点付近で車止めがあり、ジャンボタクシーでやってきたパーティーが下りるところだった。その先で車道が右にカーブするところが登山口で登山ポストあり。天気は曇りで山頂がガスっている可能性も。

100名山なので登山道は広く体に触れる藪は無いが、オーバーユース気味で泥濘がけっこうある。植生は下部は針葉樹、次に背の高いダケカンバ樹林、徐々にダケカンバの背が低くなっていき、いろいろな木が混じり始める。標高1600mくらい、8合目の先で森林限界を超えて展望が開ける。関東近郊の山より約1000m低い標高が森林限界だ。1合目、2合目・・・と標識があり9合目まで続き、現在位置の把握に役立つ。標高900m付近でガスの層を抜けて晴れの層に飛び出す。下界では分からなかったが基本は晴れたのだ。ラッキー！

9合目で避難小屋への分岐が登場、左へ曲がると避難小屋だが用事が無いのでパス。でも遠目に見た感じでは結構大きな小屋であった。小屋の右手にはまだ大きな雪渓が残っていて、今なら水を担がなくてもいいかも。でもこの時期だと雪を溶かした水はかなり汚れているかな。

少しの間だけ尾根に沿って登り、左に逸れて谷を横断して斜面を登るが、谷には幅10m程度の雪渓が残っていた。ただ、雪はまだ柔らかいし雪渓の傾斜も緩く、アイゼンの出番はなかった。

高山植物を愛でながら登って稜線(火口壁)に出ると風が強まり体感温度が一気に低下、これまでは晴れていたが山頂付近はガスがかかっている。でもガスがかかっているのは山頂付近のみで雨が降る気配は無く、右回りでお鉢めぐりに出発。この方向だと山頂到着まで時間がかかるが、もしかしたら時間が経過すればガスが晴れて山頂到着時に展望を楽しめるかもしれないとの判断があった。眼下には大きなお釜。まだ雪が残っていて凹みの中央には青い水がたまっていた。

最初のピークには旧小屋跡。土台だけ残っていた。ここを直進は比羅夫コースを下山。お鉢めぐりは右に曲がる。雪田を横断して鞍部に下ると比羅夫コースが再び分岐する。ガスの中を登り返してピークに立つとまたもや比羅夫コース分岐。そして北山への分岐でもある。ガスって先の様子が見えないがオプションの北山(1843.4m三角点峰)に向かう。

羊蹄山は大きな火口の周囲に火口壁が聳えているが、富士山のように単純に火口が1個しかないわけではなく、北西側にもう1つ火口がある。その火口の北側火口壁にあるのが北山。火口壁上は完全に森林限界を超えて植生は無く、砂礫の尾根上を進む。もう大きなアップダウンは無く、僅かに下って肩地形になるとケルンが登場、その西側に少し下ったところに傾いた三角点が立っていた。ここが北山であった。ガスで展望皆無。

分岐に戻って山頂を目指す。ガスの中から現れた最初のピークが山頂かと思いきや、標識は無かった。すぐに京極コース分岐が登場、次に1等三角点登場。ここは真狩岳で

まだ山頂ではない。さらに進んで岩混じりの火口壁を緩やかに登ると霧の中から標識の立ったピークが見えてきた。今度こそ山頂だろう。溶岩が重なったピークには先客が1名。ガスって日差しが無く冷たい風が吹くこの天気でTシャツ姿とは驚きだ。こちらは長袖の上にフリースとダウンジャケットを羽織り、マフラーに毛糸の帽子姿。ほとんど冬山状態。話を聞くと今年4月に東京から札幌に越してきたそうだ。これから北海道の山を満喫できていいなあ。天候は回復傾向のようでガスが切れて日差しが降り注ぐ時間帯も出てきた。下界は雲海で遠くの山が雲に隠れて見えないのが残念。有珠山や昭和新山、洞爺湖は見る事ができた。

天気がもっと良くなれないかと思って何だかんだで1時間も山頂に滞在。徐々に晴れの時間が長くなってきたようだが、すっきりと晴れが続くまでには至らなかった。もう充分山頂を満喫したので下山開始。それまでに単独の男性が数人やってきては短時間で戻っていった。

お鉢を右回り継続で真狩コースへ向かう。今までより岩っぽく、岩を乗り越えたり巻いたりと楽しめる場所だ。岩場なので足跡が残らずルートが分かりにくいのが白ペイントのマークが続く。特に危険な場所は無いし、もしルートを外れても尾根上の安全な場所を進んでいけば自然に登山道に合流するだろうし。

岩場が終わって最後のピークを越えて下ったところが真狩コース分岐。ここまで戻るとガスから出て晴れのエリアに入り気持ちいい。真狩コースを下っていくと次々と登ってくる登山者とすれ違う。避難小屋に職泊したと思える大きめのザックを背負ったパーティーも追い越した。

時間が余ったので帰りがけに南コブに立ち寄る。ここも登山道が整備されている。分岐から緩やかに登りが続き、最後に突き上げると南コブの展望地に到着。三角点は柵の東側の高まりにあった。南側の展望が良い場所だった。南コブから別ルートで駐車場に下るコースもあるのだが、これを通ると登山ポストを経由しないで駐車場に戻ることになり、入山届に下山時刻を書けなくなるので元来た道に戻った。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>